



# 出前講座報告書

いわき市総合保健福祉センター

1回目：平成29年10月27日 2回目：平成29年11月30日

NO. 9

## 地域診断の方法：PCM手法

いわき市の保健師の方々に参加いただき、地域の保健事業を立案する手法としてPCM（Project Cycle Management）について学びました。本研修は2回シリーズとなっており、1回目に事業立案に向けた地域診断について学び、2回目に具体的な事業計画の作成について学びました。

### 研修会1回目の様子

1回目の研修では、はじめに後藤先生からPCM手法の基礎に関する講義がありました。PCM手法とは事業の計画・実施・評価を効果的に進めるために開発された手法で、事業で掲げる問題や目的について話し合いながら計画表を作成します。

グループでいわき市が抱える健康問題について意見を出し合い、事業の目的をどのように設定するのか話し合いしました。生活習慣病を発症する原因として「おいしいラーメン



▲地域の問題について問題分析の樹形図を描きながら話し合いました。

屋が多い」といったユニークな意見が出たりと、地域の特徴を踏まえた豊かな話し合いが印象的でした。

### ～講師紹介～



福島県立医科大学  
総合科学教育研究センター  
後藤あや

平成7年山形大学医学部卒業、平成10年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程（国際保健学）修了、平成12年山形大学大学院医学研究科博士課程（公衆衛生学）修了。

米国ポピュレーション・カウンシルのベトナム支部勤務を経て、平成14年より福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、平成28年度より総合科学教育研究センター教授に着任し、現在に至る。平成24年から1年間、ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム研究員。福島県の県民健康調査「妊産婦に関する調査」の副室長兼任、日本公衆衛生学会モニタリング・レポートシステム委員。

専門領域は、母子保健、国際保健、疫学、人材育成。

## 研修会2回目の様子



▲作成した事業計画をワールドカフェに準じた手法を用いて発表しました。

2回目の研修では、1回目に考えた事業の目的に沿って事業計画表（PDM）を完成させました。事業の評価では、その事業の目的に合わせたアンケートを活用することが効果的になることもあります。研修では、計画表作成のグループワークに加え、アンケートの作成方法など、事業評価に関する解説もありました。

## アンケート集計結果

評価項目	1回目 <sup>2)</sup> そう思う <sup>1)</sup>	2回目 <sup>3)</sup> そう思う <sup>1)</sup>
<b>研修の資料や進行について</b>		
配布資料は適切だった	100%	95%
時間配分は適切だった	100%	91%
進行は適切だった	100%	100%
<b>講義について</b>		
講義内容が理解できた	95%	86%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	100%	95%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	95%	86%
<b>話し合いについて</b>		
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	100%	86%
<b>あなたご自身について</b>		
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	60%	64%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	50%	50%
<b>今後の研修に向けて</b>		
今日のような研修にまた参加したいと思う	100%	95%
この研修への参加を同僚にお勧めしたいと思う	100%	95%

### \* 復習ポイント \*

- ・グループワークでポストイットを書くときのルールは？
- ・プログラムとプロジェクトの違いは？
- ・自記式調査と面接調査の使い分け方は？

### 編集後記

地域で行われるイベントは、参加者側からするとやっぱり楽しそうな方がいいです。研修中に作られた事業計画は、地域への貢献が大きいだけでなく、参加者が楽しめるイベントものも多くて素敵でした。グループによっても地域のニーズの取り上げ方や事業計画にバラエティがあり、今後のいわき市でのイベントが楽しみです（小林）

1) : 5段階評価 : 「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

2) : 1回目（10月27日）の参加者は21名、アンケート回収は20名であった。

3) : 2回目（11月30日）の参加者は22名、アンケート回収は22名であった。